



県評しずおか

静岡県労働組合評議会

〒420-0851
静岡市葵区黒金町55番地
交通ビル3階
TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973
Eメール kenpyo@cy.tnc.ne.jp



菊池 仁 県評議長

新年あけましておめでとうございます。2026年もみなさんとともに、労働者の生活改善のために奮闘していく覚悟です。昨年は終戦・被爆80周年の年でした。各地で平

和への取り組み、核兵器廃絶の取り組みが行われていますが、残念ながら世界では、複数の地域で核兵器の使用をもちろつかせながらの戦争が続いています。

です。一昨年のノーベル平和賞を日本被団協が受賞したという世界からのメッセージは何だったのでしょうか。個人的な話で恐縮ですが、昨年の正月休みに東京の「ちひろ美術館」へ行ったときのことを思い出しました。いわさきちひろさん没後50年の企画で「平和」をテーマにした展覧会が行われていました。「平和って何色？」「平和の反対って何だろう？」なんていう問いかけがありました。平和に

何色になるのでしょうか。私は「誰もが必要としながら、身の周りにあることを意識しない空気のような『透明』」かなと思います。みなさんはどうでしょうか？

みなさん、今年も県評は、労働者の生活と権利をまもる運動に全力をあげていきます。対話と学びあいで、仲間を増やし要求を実現させるための活動をお願いします。



西部地区労連の皆さん

新年あけましておめでとうございます

2026年新春あいさつ
県評議長 菊池 仁

2026年春闘スローガン

対話と学びあいで仲間を広げ

すべての労働者の大幅賃上げと底上げ、 人間らしい労働時間の実現を

布施全労連事務局長



春闘討論集会で、布施事務局長は「対話と学びあいで仲間をふやして要求実現する26国民春闘を目指して」をテーマに春闘情勢と併せて「対話と学びあいでどう取り組むのか実践的なグループ討議も行いながら進めました。対話をすすめるうえでグラドルルールと相手へのリスペクトに加え、問題をみんなで一緒に考え、解決法を発見していく事が大切と話されました。

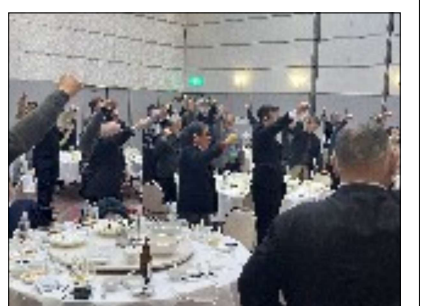
国民春闘静岡県共闘会議総会では、静岡県立大学短期大学部中澤准教授が「生計費原則をたかひのエビデンスに」と題して講演しました。旗びらきでは加盟組合や来賓団体から47名が参加し交流を深める旗びらきとなりました。

26春闘では、政府・大企業は「5%賃上げ」の継続としてますが、実質賃金低迷を打開するには「10%以上」との声も広がっています。12月8日に発表された厚生労働省の毎月勤労統計（10月分速報）で、実質賃金は前年同月比マイナス0.7%となり今年に入って10カ月連続減少です。22～24年度の3年連続マイナスで、25年度もマイナス濃厚。賃上げが物価高騰に追い付いていません。高市早苗首相は11月25

要求の求心力で仲間を増やす
労働組合になろう

国民春闘静岡県共闘会議総会と旗びらき開催
静岡県評は、12月20日に布施全労連事務局長を迎え春闘討論集会を、1月12日には中澤静岡県立大学准教授を迎え国民春闘静岡県共闘会議総会と旗びらきを開催しました。

日、経団連や連合との意見交換で「5%の賃上げを定着させるために、一昨年、昨年と遜色のない賃上げをお願いする」と述べましたが、直近2年と同程度では不十分です。大企業に付度した目標設定では、現状を打開できません。



旗びらきで団結ガンバロー

静岡県春闘共闘会議・静岡県評は、12月20日の春闘討論集会で、企業内産業内最低賃金時給1700円以上、月22万5000円以上、月額3万3000円以上（10%以上）の賃上げ要求額となりました。時間額は前年から250円以上（17%以上）です。

最低賃金要求は、従来の1500円から「いますぐ全国一律1700円以上、めざせ2000円」に引き上げました。各地で、最低生計費調査に物価高騰を加味して再計算すると、1700円以上が必要となっており、2000円に迫っています。これを正面からとらえ、要求をバージョンアップしました。

ケア労働者の大幅賃上げキャンペーンを継続・強化します。ケア労働者は診療・介護報酬改定など政治の影響を受け、賃金停滞が深刻です。厚労省「賃金引上げ等の実態に関する調査」では、25春闘の賃上げの全体平均は月額1万3601円で、前年を1640円上回ったのに対し、産業別集計の「医療、福祉」は5589円で前年から1287円減り、全産業最低です。

国立病院での全国一斉ストライキなどを繰り返してきたことで、報酬引き上げを求める世論は事業者、自治体や患者・利用者にも広がっています。闘いを成果に結びつける春闘にしようと呼びかけています。

26春闘では、25春闘を上回るストライキや統一闘争を成功させ、労働組合主導の賃上げをさらに職場・地域から広げましょう。



静岡地区労連 松川議長

すべての労働者の大幅賃上げ・底上げを求めて静岡県評・静岡県春闘共闘会議は、26春闘 新春宣伝行動を、1月6日沼津・静岡で8日に浜松で行いました。全体で19人が参加し「賃上げ交渉しよう労働組合」で今の仕事の給料上げられる！のティッシュペーパーを1600枚配布しました。

26国民春闘は、労働組合主導のたたかいで、すべての労働者の大幅賃上げ・底上げを実現しましょう。安定した雇用のもと

26新春宣伝
みんなで一緒に、
賃上げ交渉しよう

一コマ漫画



運動方針の決定と

各県の活動交流

東海北陸ブロック総会

全労連東海・北陸ブロック総会は12月13日～14日に富山県水見市ふれあいスポーツセンター会議室で開催されました。全体で46名、静岡県評から7名が参加しました。第1日目は竹内ブロック事務局長が2025年度の活動報告と2026年度の活動方針案を報告しました。福祉保育労働東海地本の西田氏から「対

どの子にもゆきとどいた教育を 教育全国署名

12月18日「子どもと教育を考える静岡県民会議」

は、塚本秀綱副知事、池上重弘教育長に静岡県議会にかけた教育全国署名の要望書を提出。主に保護者の立場から切実な願いを伝えました「中学校の体育館にエアカンがなかったため、体育の授業は夏の3ヶ月間教室で座学だった。災害時の避難所にもなり住民の命に係わるため設置を急いでほしい。中学・高校のトイレがひどい。思春期の女子にはつらくて放課後まで我慢している」「学校生活に規制が多く管理優先で子ども同士も監視し合い、息の詰まる状態。子どもの権利条約に沿って人権が尊重され、教師も生徒も人間として対等であってほしい」「ICTに頼りすぎて自習のよう。質問にも答えてくれず、わからないと泣き出してしまいう例も言葉で覚えてわかった気がする。」「

2日目は全労連事務局長の黒澤氏から「26国民春闘と対話と学びあいの実践をつくるために」と題して講演をいただきました。講演後は5～6人のグループ討論で交流を深めました。次回総会は福井県開催です。静岡県評は青年の多数参加を目指して奮闘します。



集会に参加した
静岡県評のみなさん

旧植民地出身者 から日本国籍を 剥奪

静岡県労働研究所
No. 101



報告する磯野氏

12月18日、「在日韓国人無年金者問題の構造…皆年金体制における国籍条項を通して」と題して、磯

野博氏が報告しました。2024年末の在留外国人数は約377万人であり、過去最高を更新した。そのうち特別永住者数は、約27万人であり、韓国と北朝鮮が99%を占めている。特別永住者とは、日本政府が降伏文書に調印した1945年9月2日以後も日本国内に居住していた旧植民地出身者とその家族である。1952年サンフランシスコ平和条約の発効によって日本は占領を解か

る。主権を回復する。同日、朝鮮人や台湾人など全ての旧植民地出身者とその家族から日本国籍を剥奪する。国民年金法（1959）には「国籍条項（国籍を有する国民だけは保護）」が明記されていた。国籍を剥奪された特別永住者は保護されない。難民条約の批准（1982）により、生活保障法以外の社会保障法制から「国籍条項」が撤廃される。



県教育長への要請模様

います。最後までご協力よろしく願います。

富士へのミサイル 配備反対で幅広く 共同行動を！

ミサイルやめて！の会

1月11日静岡市内において、富士駐屯地への長射程ミサイル配備に反対する市民の会が発足しました。

発足集会では、事務局から会の目的は「富士にミサイルはいらぬ」の一点で団結する。活動は「情報収集と分析を行い、署名活動やSNSでの発信で世論を掘り起こしありとあらゆる手段でミサイル配備反対の運動を進める事」が、提案されました。また、会の正式名称を「富士にミサイルやめて！の会」とする事や5人の共同代表について提案・採択されました。発足集会には、180人が参加しました。

発足集会に続いてNPO法人ピースデポで平和問題に取り組み木元氏から「高市政権の軍拡と長射程ミサイルの配備―日中関係は今後どうなる」と題した講演がありました。南西諸島から九州や日本列島各地へ軍拡が進められている実態が報告され、すでに外国でミサイル発射訓練が取り組まれていることなど、着々と戦争への準備が進んでいる事が明らかにされました。



講演する木元氏

職場の安全衛生を実現するために

静岡県安全健康センター No. 111

スキマバイトの 広がり

高市氏が総裁就任時に「ワークライフバランスを捨てる。馬車馬のように働いてもらう」と言ったのは有名ですが、単なる冗談ではなく、労働時間の規制の緩和を厚労省に指示しました。過労死をなくす、不払い残業の根絶、労働時間を短縮し自由な時間こそ人間らしいの本質、と進んできた時代をこれほど乱暴に踏みこむ政権はありません。日々労働事案に取り組んでいると、労災認定に非協力的な会社が多いこと、精神疾患の場合には大変な立証の壁があることな

どを痛感します。労災請求件数は年々増加していますが、それでも申請に至っていない労働者がさらに、大変多くいることも感じています。その背景に8時間働いても安心して生計を立てる賃金が保証されていないことがありとされています。スキマバイトの登録者は3400万人いると言われていて「事前の説明と違う労働内容・条件」「パワハラが横行」「直前にキャンセルになった」「労災を認めない」など苦情が寄せられますが、さらに広がっています。労働規制を緩和し副業・兼業を進めるのは結局

低賃金への不満を、超長時間労働で補わせるという資本の要請そのものです。ローカルユニオンなどが進める非正規労働者の運動にはこのスキマバイトも含めていくことを期待したいと思います。過労死をなくすことに逆行する規制緩和が進む中で、一つだけ心にとめておいてほしいことがあります。ILO155号条約です。1981年に採択されていますが、ようやく2024年に批准されました「生命や健康に切迫した重大な危険のある場合に労働者は作業を中止し避難できる」これが内容です。

水を抜くことなしに トンネルは掘れない

リーア差し止め訴訟
第20回口頭弁論

12月19日に静岡地裁にてリーア裁判の第20回口頭弁論が実施されました。原告側の証人尋問があり、午前中は、山岳トンネルのNATM工法を日本に導入し、困難事例で名高い中山トンネルなどの山岳トンネル工事に携わった大塚正幸氏が証言しました。

断層破砕帯が集中する南アルプスにおいて、断層破砕帯からトンネル工事において大量の湧水が出る仕組みを説明しました。また薬液注入のプレグラウト（事前の注入）において1400メートルの土かぶりの中の南アルプストンネルで想定される50気圧以上の圧力のもとでは、その3倍の



報告集会で発言する
証人の大塚氏

県評女性部 初春のつどい

日時 2026年1月31日（土）
受付 13時 開会 13時30分
会場 ロッキーセンター
講演 中村果南子さん
「ハラスメントをなくす
職場づくりに向けて」

力を持った薬液注入が必要であり、著しく困難と述べました。ポストグラウトも、北薩トンネルを事例に難しと述べました。そしてトンネル工事に携わった経験から、吹付コンクリートや防水工、覆工コンクリートはトンネル防水たりえず、他の方策含めJR東海のトンネル湧水を戻す策は成り立たないと述べました。これまでのトンネル工事の経

験からすれば、水を抜くことなしにトンネルを掘ることとはできないと証言しました。水抜きしなければ掘れないという結論に説得力がありました。午後、証人として、桜井、大石、山本、村山の各氏が陳述を行いました。次回6月5日（金）で結審の予定です。